

AMERICAN and BRITISH
SLANG
DICTIONARY

AMERICAN and BRITISH
SLANG
DICTIONARY

米英俗語辞典

編 者

コロンビア大学教授 ドナルド・キーン
早稲田大学教授 藤 井 章 雄

編 集 協 力

筑波大学教官 ポール・スノードン
筑波大学教官 ポール・マククリーン

朝日出版

ま え が き

しばしば指摘されていることであるが、辞書というものは、いかに最新のものであっても、過去の一点におけるレポートにすぎない。いわんや、時の流れとともに目まぐるしく生れては消滅する「くだけた表現」だけを扱う辞書の場合は、なおさらこの色彩が強くなる。それを十分承知の上で、あえてここに日本人のためにこの辞書を編む動機となった最大の理由は、我が国に、いまだアメリカとイギリスの日常生活で話されているくだけた言葉だけを集めた「引くための辞書」が存在しないことにある。たしかに、このような種類の言葉の世界は変化がはげしいが、注意深くながめてみると、かなりの期間を経ても消滅することなく、英米人の日常生活の中に根をおろしている言葉が数多く存在することも厳然たる事実である。このような定着語を母体として辞書を編み、その後適当な周期で新しい言葉を追加していけば、「常に新しいくだけた表現の辞書」を編むことも不可能ではないのではないか、という予測が本辞書の作成にふみきらせたのである。特に我々日本人の実用的コミュニケーションに、このような辞書は大きな手助けとなるのではないかと判断した。まず、耳によるコミュニケーションで、我々が複数の英米人と会話をしている時にしばしば経験することであるが、彼等が我々に話しかける言葉を理解することは比較的容易であるのに、彼等自身が行なっている会話は殆どわからないことが多い。これは、彼等が、特に教養が高く語彙が豊富であればあるほど、二つの異なったレベルの言葉を使い分けているからである。我々に話しかける言葉は我々が学校でなれ親しんでいる標準

英米語であり、彼等自身の間で行なっている会話は「くだけた表現」という異なったレベルの言葉を多く含んでいる場合がしばしばあるからであろう。また、目によるコミュニケーションにおいても、我々が英米の新聞、雑誌、漫画、小説（特に会話部分）に接する時、通常の辞書、特に小型の辞書では読解不可能な場合が極めて多い。我々は、物理的にも、常に大型の辞書を二、三冊持ち歩くことができるものではない。小型の辞書で、このような読解上の困難に直面した日本人の手助けとなりうる日常の「くだけた表現」の辞書があったら良いのではないか——さらに、大型辞書でさえも載せていないが、英米人の間で日常よく用いられる表現をも記しているような小型の辞書の存在が極めて便利ではなからうか、というのが本書の作成にふみきらせたのである。

この辞書を編むことを決心させたいまひとつの理由は、英米人の発想と思考の根底にあるものを理解することと関連している。我々日本人の日常生活は数多くの「くだけた表現」にあふれており、そのような言葉は我々のコミュニケーションをなめらかに進行させ、生き生きとさせているが、我々は意識をするしないに関係なく、そのような言葉で物事を考えたり、判断を下していることがしばしばある。つまり、このようなくだけた言葉は、我々の発想と思考過程の底に深く根をはっているのである。同様のことが英米人にもいえるのである。彼等の「くだけた表現」は、彼等が長年の生活から持つにいたったひとつの文化であり、常に彼等の発想や思考に影響を及ぼしているのである。そのような言葉を理解しない限り、彼等の心を知ることは極めて困難であろう。この辞書を編むことは、日本人が「英米人の発想と思考を共有する」

手助けとなりはしないかと考えたのである。

次に説明しておきたいことが二、三ある。第一は、**㊦**、**㊧**、**㊨**の表示に関連している。最近の日本は米語一辺倒の感があるが、英語の「母国」である英国の英語は依然として無視できない存在で、その影響力はカナダ、オーストラリアなど英国と深い関わりのある国々を含め世界的である。英国の「くだけた表現」にも大きな注意を払った理由がここにある。ただ、最近では、たとえば英国の表現が米国にもますますとり入れられるようになっており、同時に、米国の表現もどんどん英国に流れこんでいるので、もともとは、いずれかの国の表現であったものでも、今日では両国に共有されるようになっているものが極めて多くなっている。したがって、**㊦**、**㊧**の表示は、このような表現をも多く含むことを理解していただきたい。また、一方では、依然としていずれかの国で圧倒的に用いられている表現も数多い。そのような言葉は**㊩**、あるいは**㊪**の表示を伴っているが、両国の共有化傾向の強い今日、その表示も絶対的で恒久的なものではなく、厳密には、あくまでも編者が調べた時点において、いずれかの国で「主として用いられていた」ことを確認する程度の意味であることを理解していただきたいのである。

次に*（星じるし）と例文について若干説明しておきたい。この辞書が扱っている「くだけた表現」は三つのレベルに大別することが可能である。一番目は、主として書き言葉よりも話し言葉で用いられる「くだけた口語表現」で、これを*で表してある。二番目と三番目は共に、一般的に俗語（スラング）と呼ばれるもので、二番目は親しい人々の間や、特

定の集団の中などで、日常的に用いられる「きわめてくだけた表現」である。これを** で表わしてある。三番目はセックスなど社会的にタブーとされていることを扱ったり、侮蔑的感情を強く含んでいるもので、きちんとした場所などでは口にすることをはばかるべき卑語・侮蔑語である。これを*** で表わしてある。同じ見出し語でも、意味するところによって、あるいは品詞によって、そのレベルが変移する場合もしばしばあり、そのような場合は各定義、各品詞に星じるしをつけて明示してある。また例文を作成するにあたっては次のことを考慮した。見出し語の中には、卑語・侮蔑語も多くあり、「ポンド金貨」、「6 ペンス貨」など今は存在しないものや、昔の軍隊用語のように現在はあまり用いられなくなっている表現も少しは含んでいる。このような言葉は、主として小説などを読む人々のために記したものであるが、そのような見出し語には例文をつけないように配慮した。例文は、あくまでも、現在しばしば用いられている表現(* または** の見出し語)の中から、例文を伴った方が見出し語の意味が理解しやすいと判断したもの、あるいは、日本人が状況によっては使用することがあっても問題がないと判断したものに限定されていることをことわっておきたい。

英米の口語・俗語表現に関する編者の知識は極めて限定されている。そのような私に大きな力を貸してくれたのが、快よく編著の労をとって下さり、全般的に適切な示唆を与えて下さった Columbia 大学の Donald Keene 教授であり、さらに、**困**の判別、例文の作成などにおいて貴重な助言を与えて下さったのは、私の友人で、ともに、筑波大学で教えておられる Paul McLean (米国人)、Paul Snowden (英

国人)の両氏である。これら三氏のご協力に対し厚く感謝したい。さらに、定義を与える上で、英米の数多くの文献も大いに参考になった。Harold Wentworth, Stuart B. Flexner の *Dictionary of American Slang*, Eric Partridge の *Dictionary of Slang and Unconventional English*, Clarence L. Barnhart, Sol Steinmets, Robert K. Barnhart の *Dictionary of New English*, William Freeman の *Concise Dictionary of English Slang*, Eugene E. Landy の *The Underground Dictionary*, *The International Webster's New Encyclopedic Dictionary* の supplement としての *Dictionary of Contemporary and Colloquial Usage*, さらに口語表現、発音、アクセントなどに関しては、*Webster's New World Dictionary of the American Language*, *Random House Dictionary of the English Language*, 及び *American Heritage Dictionary of the English Language* などを参考にさせていただいたことを記し、ここに厚く謝意を表したい。

さらに、この辞書は朝日出版社の原雅久社長、村上、佐藤、長谷川、久保田、Cecilia M. Hamagami, David F. Thompson 各氏による多大のご協力の成果である。特に原社長は、編者の一方的な注文や要望に対し、寛大に理解して下さり、全面的に援助して下さい。心からお礼を申し上げます。また、この辞書の作成にあたって、骨の折れる編集作業を首尾一貫してやって下さった友人の藤崎和男、内野泰子両氏に心から謝意を述べたい。藤崎、内野両氏からは、お二人のご協力がなかったらこの辞書が世に出ることはなかったであろうと言えるほどの、献身的なご奉仕をいただいた。

本書は辞書の性質上、新しい言葉を追加しながら改善して

いきたいと考えている。そのためにも，使用者各位からのご助言，ご叱正を期待するものである。

1981年 2月

藤井章雄

PREFACE

The English taught in Japanese schools helps the student to read newspapers and scholarly works, and the same is true of most English-Japanese dictionaries. However, once the student enters the world of literature, the theatre, or even everyday conversation, the English he has learned in school or can find in dictionaries is likely to prove inadequate. In every country people use non-standard words, whether recently invented slang, coarse expressions, dialect, or whatever it may be, to lend force and interest to what they say. This is true of Japan too. If a contemporary play were written exclusively in standard Japanese—the language used, for example, by NHK announcers—it would seem stilted not only to audiences but to the actors, for at moments of excitement it is natural to depart from standard speech, and actors who were obliged to speak only the language of the dictionaries would not be very convincing. Interesting literary works tend always to use colloquialisms, no matter what the language. A Japanese who can easily read an English newspaper or learned article may nevertheless have trouble reading or understanding a modern play or short story, even one intelligible to any English or American child.

Colloquial English differs from standard English both in the use of new words and in the new meanings it gives to old words. For example, the expression “break a leg” is used in the United States. It is mainly said to dancers or actors about to go on stage, to mean “good luck.” If one looks up the expression in an ordinary English-Japanese dictionary, he or she will probably find that it does not appear. And should the Japanese take the expression as it stands literally, the meaning would be the complete opposite of what it signifies!

I confess that some of the words in this new dictionary are

unfamiliar to me too. I have never heard, for example, of "ooftish" or "oogley." But in dictionaries, the more words, the better. Every living language is constantly creating new words, which are the proof of its vitality. This dictionary of American and British slang should prove of the greatest help to every Japanese who is interested in the English that is spoken and written today.

Donald Keene
February 1981

本書の使い方

本書は見出し語として約 8,500, 同義語・同義表現として約 1,500, 合わせて約 1 万語を収めた。本書は引くことを主眼にして編纂された辞書であるが、数多くの例文を載せることによって「読む」楽しさも同時に味わってもらおうべく留意してある。

ⓂⓂの表示

本書では、見出し語の 1 つ 1 つについて、あるいは語義が 2 つ以上に及ぶ場合必要ならばそれぞれの語義について ⓂⓂ の記号を付し、その使用区分の目安とした。

Ⓜ…………おもに米国で使われる表現。

Ⓜ…………おもに英国で使われる表現。

ⓂⓂ…………米英両国で使われる表現。

ⓂⓂの表示のし方については次の通りである。

- (1) ⓂⓂの表示は、原則として品詞名の後（品詞名のない時は発音記号の後）につけた。

【例】 **jawbreaker** [dʒɔːbrɛɪkər]* *n.* ⓂⓂ 発音しにくい言葉、(特に)長たらしい語。

band of hope** [bænd] Ⓜ 石けん。

- (2) 品詞が 2 つ以上の場合は、それぞれの品詞名の後につけた。

【例】 **blue** [bluː]* *adj.* ⓂⓂ わいせつな、きわどい……
*n.** ((the~s)) ⓂⓂ ①沈んだ気持、憂うつな感情……
*vt.*** ⓂⓂ 浪費する、むだ使いする。

- (3) 語義が 2 つ以上に及び、ⓂⓂの区分が異なる場合は、①②③…の番号の後につけた。

【例】 **knock** [nák|nók] *vi.* ①* ⓂⓂ あら探しする、ささいなことを非難する…… ②** Ⓜ 話す、議論する。
③*** Ⓜ ((卑)) (男が)性交する、セックスする。

星印(*)の表示

本書では、見出しがどの程度くだけているか星印によって分類し明示してある。

星印 1 つ(*) ……………日常の話し言葉としてごく普通に使われるく

だけの口語表現.

星印 2 つ(**)……親しい友達同士や特定の集団の中などで用いられるきわめてくだけた表現.

星印 3 つ(***)……社会的にタブー視されることを扱ったり、侮蔑的感情を強く含んでいる卑語・侮蔑語.

星印の表示の実際例については、次の通りである.

- (1) 見出し語の語義が 1 つの場合は、その語の発音記号の肩に付した. 語義または品詞が 2 つ以上であっても、星印の数が同じ場合は 1 つにまとめて発音記号の肩に付した.

【例】 **bananas** [bəˈnæːnəz | -nɑːnəz]** *adj.* ㊦㊧ 気違いじみた, 常軌を逸している……

interj. ㊦㊧ 馬鹿な! くだらん! ナンセンス!

ただし、発音記号を付していない見出し語や、最初の語についてのみ発音記号を付してある見出し語は、その見出し語の肩に星印を付した.

【例】 **kissing bug*** [kɪsɪŋ] ㊦ ① キスが大好きな人, キス魔. ② どうしようもないほどキスがしたい気持…

- (2) 見出し語の語義が 2 つ以上で、星印の数が異なる場合は ① ② ③… の番号の肩に付した.

【例】 **bang** [bæŋ] *n.* ①** ㊦ 活力を見せること…

②** ㊦㊧ スリル, 興奮. ③*** ㊦㊧ 《卑》性交…

- (3) 品詞が 2 つ以上で、その品詞の星印の数が異なる場合は、それぞれの品詞名の肩に付した.

【例】 **lather** [læðər | láːðə] *vi.** ㊦㊧ こっぴどく打つ, 打ちのめす, むち打つ.

*vt.*** ㊦ 《野球》(投球を)打つ, 引っぱたく.

*n.*** ㊦㊧ 興奮, 動揺, 頭に血がのぼった状態……

語 義

一般的な定義に加え、それが可能な場合には、くだけた表現のニュアンスをできるだけ伝えるような訳語を加えるよう心がけた. しかし、あまりにも卑俗にわたる訳語はあえて採らなかった. 語義を読むにあたって次の点に留意されたい.

- (1) 語義の複雑なものは、① ② ③…の番号で語義を大別し、必要に応じて例文をつけ、その使い方を明示した。
 (2) 訳語の前にある、《A～》、《K～》…などは、その語義では大文字で用いられることを示す。

【例】 **jerry** [dʒéri] *n.* ①** 《J～》**米英** 寝室用の便器, おまる. ②*** 《J～》**米英** 《蔑》ドイツ人, ドイツ兵. ③** **米** (隠しやすい)小型ピストル.

- (3) 訳語の前にある《the ～》は定冠詞がつくことを示す。

【例】 **pond** [pánd|pónd]* *n.* 《the ～》**米英** 《おどけて》海, 海岸……

- (4) 訳語の前にある《複》は、複数形で用いられることを示す。

【例】 **cake** [kéik] *n.* ①** **米** セクシーな娘(女). ②** **英** お金, 銭. ③*** 《複》**米** 《卑》陰, 外陰部.

- (5) 訳語の前にある《one's ～》は、代名詞がつくことを示す。

【例】 **meat** [mít] *n.* ①** 《one's ～》**米** 得意なこと, 上手なこと, 好きなこと, おはこ, 十八番……

- (6) 訳語の前にある《卑》は卑語を、《蔑》は侮蔑語を示す。(上記の **jerry** ②と、**cake** ③を参照)

発 音

- (1) 米国と英国との発音が異なる場合は、[] の中を (|) で仕切り、左に米国、右に英国の発音を示した。

【例】 **garf** [gárf|gáf]** *vt.* **米英** 食べる, 食う……

- (2) その見出し語が米国(英国)のみで用いられる場合は、米国(英国)のみの発音記号を示した。

【例】 **netter** [néɾɐ]** *n.* **米** テニスの選手……

nicker [níkə]** *n.* **英** ① 1 ポンド, 1 ポンド紙幣……

- (3) 次のような場合は、米国、英国の発音記号を1つにまとめた。

【例】 **nigger** [nígəɾ]** *n.* **米英** 《蔑》黒人……

(**米** [nígəɾ]+**英** [nígə]=[nígəɾ])

bird [bá:rd]** *n.* ① **米** 男, やつ…② **米英** 不賛成…

(**米** [bá:rd]+**英** [bá:d]=[bá:rd])

- (4) 英国式の [əu] の発音は米国式の [ou] の発音に統一した。

たとえば **boat** は多くの辞書に英国式の発音として [bəút] と

- 記されているが、英国では最近、米国式の発音である [bóut] あるいはこれに極めて近い発音が多くの人々に受け入れられているので、本書では [bóut] を米英共通の発音として採用した。
- (5) アクセントはアクセント符 (ˈ) を付けて示し、第2アクセントのある場合は (ˌ) で示した。

【例】 **pig** [pɪɡ]** *n.* ① ㊦女, 女の子……

pigskin [pɪɡskɪn]* *n.* ① ㊦フットボール……

- (6) 2語以上の見出し語については、キーワードとなる最初の語の発音を示した。

【例】 **parlor house**** [párlər] ㊦売春宿, 女郎屋。

- (7) 省略できる音は斜体を用いて示した。

【例】 **whee up**** [hwi] ㊦興奮させる……

指印(☞)と矢印(⇒)

- (1) ☞印の内容は主として見出し語の原義、語義の由来、用法上の注意、同義語・同義表現を示す記号である。

【例】 **AC/DC**** *adj.* ㊦(セックスで)男女両性に交わる, 両刀使いの…… ☞原義は「交流・直流」。

Amazon, amazon [æməzən, -zən|-zən]** *n.* ㊦女傑, 女丈夫…… ☞ギリシア神話に出てくる勇猛な女人族 Amazon から。

blame [bléim]** *vt.* ㊦のろう, ののしる。☞ユーモラスな命令文や願望文に用いられる。

take the bun* ㊦1等賞をとる, (他を)圧倒する。
☞take the cake, take the biscuit と同義。

- (2) 矢印(⇒)は2通りの意味で使われている。第1は矢印で示す語と同義であることを示し、その語を見よ、の意である。第2は矢印で示す語がキーワードで、その語の項に当該の語句があることを表わす。

【例】 **blind tiger**** ㊦⇒blind pig …… (第1)

blow a fuse* ㊦⇒fuse …………… (第2)

用字・用語

本文中の和文は原則として当用漢字及び新仮名づかいに準じた

が、次にあげるような幾つかの言葉については借字(あて字)を用いた。

馬鹿(ば), 阿呆(あほう), 泥棒(どろぼう), 田舎(いなか)……など。

特殊語の表示

ある特殊な(専門)分野などに限って用いられる場合は、『 』の中にその指示を与えた。

【例】『軍』, 『海事』, 『野球』, 『ボウリング』, 『競馬』, 『スポーツ』, 『トランプ』……など。

『軍』の場合は、軍事用語、軍隊用語の両方の意を含むが、必要な場合は☞で区別を明らかにした。

品詞の表示

見出し語の品詞については斜体文字の省略記号を用いて示した。

n.………… noun (名詞)

pron. …… pronoun (代名詞)

vt. …… transitive verb (他動詞)

vi. …… intransitive verb (自動詞)

adj.………… adjective (形容詞)

adv.………… adverb (副詞)

interj.…… interjection (間投詞)

prep. …… preposition (前置詞)

conj. …… conjunction (接続詞)

A

A [éi]** *n.* ㊦ ①(覚醒剤としての) アンフェタミン (amphetamine). ②(幻覚剤としての) LSD.

Abe [éib]** *n.* ㊦ 《蔑》ユダヤ人 (Jew). ㊦ Abie [éibi] も同義.

aboard [əbórd, əbórd]** *adv.* ㊦ 《野球》塁に出ている, 出塁している. // He hit a homer with two *aboard* in the bottom of the ninth inning. (彼は9回の裏にスリーラン・ホームランを打った)

A-bomb [éibàm]** *n.* ㊦ いろいろな麻薬を混ぜ合わせたもの, (特に)マリファナ・ハシシュ・アヘンを紙巻きたばこ風に混ぜたもの. ㊦ 原義は「原子爆弾 (atomic bomb)」.

abortion [əbórʃən|əbós:-]** *n.* ㊦ ㊦ 失敗, 不首尾, 不出来なもの, (特に)出来ばえがお粗末なので こっけいに見えるもの. // Glenn tried for many days to sell the new product in the Midwest, but it was an *abortion*. (グレンは米国の中西部でその新製品の売込みに何日間も精を出したが, うまくいかなかった)

about [əbáut] —**how (or what) about ~?*** ㊦ ㊦ ~はいかがですか, ~をどう思いますか. // *How about a cup of coffee down at the corner?* (あそこの角でコーヒーでも1杯どうだい) ㊦ *What is your opinion (or wish) concerning ~?* の意.

Acapulco gold** [ækəpúlkou] ㊦ 上質のマリファナ, 大麻.

AC/DC** *adj.* ㊦ ㊦ (セックスで) 男女両性に交わる, 両刀使いの. // I was shocked. No doubt Bob is AC/DC. (びっくりしたよ. ボブは明らかに両刀使いだ) ㊦ 原義は「交流・直流」.

ace [éis] *adj.** ㊦ ㊦ 一流の, 腕ききの, 敏腕の. // Mr. Smith became an *ace* salesman only three years after joining the firm. (入社後わずか3年で, スミスさんはすご腕のセールスマンになった)

*n.*** ㊦ 1ドル紙幣 (one dollar bill).

—**ace high*** ㊦ ①人気がある, 受けがいい, 大いに尊重される. // Mary is sexy and so she's *ace high* with the boys. (メアリーはセクシーだから男の子にちやほやされる) ②素晴らしい, このうえなくすぐれた. // I feel *ace high* now. Beth said this morning she would marry me. (ぼくは今最高の気分だよ. ベ

A

スがぼくと結婚すると今朝約束してくれたんだよ)

—**ace in the hole**** ㊦㊦ 取っておきの切り札. // Bob is a mediocre man, but when he faces difficulties, he tackles them with a marvelous tenacity. This tenacity could be called his *ace in the hole*. (ボブは凡庸な男だが、困難に直面すると、驚くべきしつこさでそれに取り組む。このしつこさが彼の最大の強味といえよう) ♠ポーカーでトラの子 (hole card) としてのエースを持っていると作戦上有利なことから。

—**ace of spades***** ㊦㊦ ①《蔑》黒人、黒んぼ、(特に)肌がきわめて黒い黒人。②《卑》腔、外陰部。

ace boon** *n.* ㊦㊦ 親友、相棒。

ache [éik]* *vt.* ㊦㊦ ~がしたくてたまらない、~に恋いこがれる。// Nancy is fed up with the noisy city life. She's *aching* to return to her hometown. (ナンシーは騒々しい都会の生活にうんざりしており、ふるさとに帰りたくてたまらない)

acid [ésid]** *n.* ㊦㊦ (幻覚剤としての) L S D.

—**come the acid**** ㊦ ①威張り散らす、(人)を不愉快にする。// Few people, I think, are more critical than our new manager. He always *comes the acid*. (今度のマネージャーはどうるさいやつはいないね。いつも威張り散らしている) ②(責任や義務を)他人に負わせようとする、転嫁しようとする。

acid head** ㊦ L S D常用者、L S D中毒者。

acid rock** ㊦ L S Dを使用して踊り狂うロックンロール。

acid trip** ㊦ (L S D服用から起きる)幻覚体験。// A 20-year-old pop singer shocked the entertainment world last week by confessing he had taken *acid trips* many times. (20歳になる某人気歌手は、先週、これまでL S Dの幻覚症状に陥ったことが何度もあると告白して、芸能界にショックを与えた)

ack-ack [ækæk]** *n.* ㊦㊦【軍】対空砲(火) (anti-aircraft gun)。

acre [éikər]* *n.* ㊦㊦《複》多量、たくさん、いっぱい。// Mr. Johnson is a business tycoon who has *acres* of famous paintings. (ジョンソン氏は財界の大御所で、有名な絵をどっさり持っている)

act [ékt]* *n.* ㊦㊦ 見せかけ、表向き、かっこう、ポーズ。// It's better not to take Sam's words at face value since his eloquence is often just an *act*. (サムの巧みな言葉はしばしば単なる外交辞令なので、彼の言うことを真に受けないほうがいい)

—**act up*** ①㊦㊦ (いつもと違った)予想外の動きをする。// I was surprised to see the bicycle *acting up*. (自転車の調子がおかしいのでびっくりしたよ) ②㊦ 勝手に振舞う、悪さをする。// Mr.